

デジタルAV機器市場の調査を実施

液晶テレビ国内市場

2010年はエコポイント特需で前年比1.9倍の2,450万台

以降特需の反動で縮小し、13年以降拡大に転ずるが15年は10年比54.3%減の1,120万台

マーケティング&コンサルティングの株式会社富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839)は、地上デジタル放送移行で活況を呈するデジタルAV機器の市場を2011年3月から5月にかけて調査し、完全移行後の市場を展望した。その結果を報告書「デジタルAV機器市場マーケティング調査要覧(2011年版)」にまとめた。

この報告書では、テレビ5品目、ディスプレイ3品目、レコーダー/プレーヤー4品目、カメラ5品目、チューナー/STB5品目、ポータブル機器5品目、ホームオーディオ6品目の計33品目のデジタルAV機器の国内市場及び世界市場(世界市場は28品目)を調査分析、展望した。併せてエンターテインメント/情報機器7品目、デバイス/技術/サービス10品目についても市場動向を明らかにした。

<注目市場>

1. 液晶テレビ国内市場(10インチ以上を対象)

	2010年	2011年見込	2015年予測	10年比
10~19インチ	125万台	90万台	90万台	72.0%
20~29インチ	660万台	450万台	400万台	60.6%
30~39インチ	1,420万台	700万台	470万台	33.1%
40~49インチ	205万台	65万台	120万台	58.5%
50インチ~	40万台	15万台	40万台	100.0%
合計	2,450万台	1,320万台	1,120万台	45.7%

2010年の市場はエコポイント制度の延長もあり前年比88.5%増の2,450万台となった。エコポイントが半減する直前の11月には駆け込み需要で前年同月比2.5倍以上の伸びとなった。2011年は、1月~2月が3月のエコポイント制度終了を控え前年同月比1.2倍超となった。3月以降は東日本大震災の発生により消費意欲が落ち込んでいる。地上デジタル放送完全移行となる7月までは駆け込み需要が期待されるが、需要は前倒しになった反動もあり、8月から急激な減少が予想される。また、大震災の影響による部材不足で製品供給減少も予想されることから、通年では市場は大幅に縮小すると見込まれる。市場は2012年まで縮小が続くが、2013年以降は買替え需要により、堅調な拡大が予想される。

サイズ別に見ると、2010年はエコポイントの恩恵が大きい40インチ以上の大型製品や低価格化が顕著となった30インチ台の製品が11月まで供給不足になる程大きく伸びた。一方で徐々に20インチ前後の製品の割合が拡大しており、2011年は寝室や子供部屋向けの2台目需要が増加している。

2. BD(Blu-ray Disc)レコーダー/プレーヤーの国内市場

	2010年	2011年見込	2015年予測	10年比
BDレコーダー	500万台	600万台	480万台	96.0%
BDプレーヤー	30万台	60万台	140万台	466.7%
合計	530万台	660万台	620万台	117.0%

2010年のBDレコーダー/プレーヤーの市場は前年比68.3%増の530万台となった。今後BDレコーダーは2011年をピークに縮小するが、BDプレーヤーは堅調に拡大すると予想される。

BDレコーダーの市場は2010年にエコポイント制度で急伸したデジタルテレビとのセット購入が増加し、前年

比66.7%増の500万台となった。特に駆け込み需要でデジタルテレビが大きく伸びた11月には、BDレコーダーも前年同月比2倍を達成した。2011年は7月までデジタルテレビと共に伸び、8月以降デジタルテレビは減少するが、BDレコーダーは引き続き伸びると見込まれる。BDレコーダーはデジタルテレビと時期をずらして購入されるケースもあり、2011年がピークになると見られる。それでも東日本大震災が発生した影響で東北地方における需要の大幅減や部品工場被災による製品供給の遅れなどが予想されており、大震災前の見通しよりも需要は減少する。

BDプレーヤーの市場は2010年に前年比2倍の30万台となった。BDレコーダーと比べると市場規模は1割程度と小さいが、好調なデジタルテレビとのセット購入に加え、低価格製品の登場で伸びている。パッケージソフトのDVDからBDへのシフトに伴いプレーヤーのBD化も加速している。低価格化も着実に進んでいるため、2012年にはDVDプレーヤー市場を逆転すると見られる。その後は上位機種との競合も考えられるが、価格差があるため市場には大きな影響はないと見られる。

3. ホームシアターシステムの国内市場

	2010年	2011年見込	2015年予測	10年比
パッケージシステム	19万システム	25万システム	40万システム	210.5%
一体型サラウンドシステム	49万システム	27万システム	35万システム	71.4%

ホームシアターシステムで個々のアンプ、スピーカー、サブウーファー等がセット販売されるのがパッケージシステム、アンプ、スピーカー、サブウーファー等が一体となったシステムが一体型サラウンドシステムである。一体型サラウンドシステムにはテレビ台にアンプが内蔵されたラック型と、壁に掛けられたり、テレビ台に設置できたりするワンバー（横棒）型がある。

パッケージシステムの市場は2010年に19万システムと前年比9.5%減少した。大型のデジタルテレビが伸びたことでテレビ台買い替え時にラック型サラウンドシステムを選択するユーザーが増え、その影響でパッケージシステムの需要が減少した。2011年はデジタルテレビ需要の減少に伴うセット購入の減少に加え、絶対必要なものではないことから大震災の影響や景気低迷により買い控えがあると見られる。しかし、製品供給体制に目立った問題が無く、テレビの薄型化による内蔵スピーカー性能の低下からテレビ購入後に追加購入が期待され、簡易に設置可能な2.1ch（左右のメインスピーカーとサブウーファーの構成）パーティプで実売2～3万円の低価格な製品が投入されることで市場は拡大すると見込まれる。2012年以降は大型テレビの需要減に伴いラック型サラウンドシステムの需要が減少するが、後付けし易いパッケージシステムの需要は拡大すると予想される。配線の煩わしさのないワイヤレスタイプやイヤホンジャックでテレビに接続するタイプなど、ラインアップが拡充していることから更なる市場の活性化が期待される。

一体型サラウンドシステムの市場は2010年に49万台と前年比8.9%拡大した。ラック型は37インチ以上の大型テレビとのセット購入で伸びている。特に家電量販店の安価なオリジナルモデルが好調であった。ワンバー型も各社から安価な製品が投入されている。

2011年はデジタルテレビが8月以降減少するためセット購入が減少すると見られる。また、テレビ需要が大型から小型へと移行していることからラック型の需要が減少すると見られる。更に大震災の影響から消費マインドも冷え込んでいるため、市場は縮小すると見込まれる。縮小は2012年まで続くが、以降は薄型テレビ買い替えに伴ったラック型の需要が回復に向かうと見られる。但し、パッケージシステムで好調なサブウーファーとパーティプスピーカーをセットにした製品と競合すると見られることから、急激な市場拡大はないと予想される。

4. ミラーレス一眼カメラの国内市場

2010年	2011年見込	2015年予測	10年比
26万台	30万台	36万台	138.5%

ミラーレス一眼カメラはレンズ交換が可能で、大型イメージセンサーを持つ一方で、光学式ファインダーを持たず、電子式ファインダーを利用するミラーレス構造のデジタル一眼カメラである。2008年10月にパナソニックから投入され、市場が立ち上がっている。

2010年の市場は前年比62.5%増の26万台となった。デジタル一眼レフカメラと同様の大型撮像素子を搭載しており表現力が豊かな一方で、小型・薄型を実現し、デジタルスチルカメラ（デジタル一眼レフカメラは含まず）とデジタル一眼レフカメラの中間に位置づけられる製品である。従来、操作性が困難で重いというイメージからデジタル一眼レフカメラの購入を躊躇していたユーザーを獲得しただけでなく、デジタルスチルカメラからデジタル一眼

レフカメラへのステップアップ機としての需要を獲得している。今後も市場は拡大推移すると予測される。

< 調査結果の概要 >

	2010年	2011年見込	2015年予測	10年比
デジタルAV機器市場	2兆6,404億円	1兆,7752億円	1兆5,120億円	57.3%
エンターテインメント/情報機器	2兆3,859億円	2兆4,649億円	2兆4,892億円	104.3%
合計	5兆 263億円	4兆2,401億円	4兆 12億円	79.6%

調査対象としたデジタルAV機器の2010年の国内市場は、ホームオーディオやポータブル機器、ディスプレイ（ホームプロジェクター、ポケットプロジェクターなど）が縮小したものの、テレビやレコーダー/プレーヤー、チューナー/STB、カメラが拡大し、前年比29.6%増の2兆6,404億円となった。液晶テレビを中心に地上デジタル放送移行前の駆け込み需要に加え、エコポイント制度延長に伴う特需が主因である。デジタルテレビの関連製品で特にラック型のホームシアターシステムやBDレコーダーの需要が拡大している。

2011年以降は、デジタルテレビ需要が低迷すると見られる一方、エンターテインメント/情報機器であるスマートフォンやスレート端末需要が急拡大する。そして今後は映像、録画、撮像、音響の各分野で連動した製品開発が展開される他、インターネットテレビと連動した製品投入によってデジタルテレビ需要が喚起されると見られる。

以上

< 調査対象 >

デジタルAV機器	テレビ	液晶TV、PDP-TV、BD/DVD一体型TV、HDD内蔵TV、インターネットTV
	ディスプレイ	ホームプロジェクター、ポケットプロジェクター、ヘッドマウントディスプレイ
	レコーダー/プレーヤー	Blu-ray Discレコーダー、Blu-ray Discプレーヤー、DVDレコーダー、DVDプレーヤー
	カメラ	デジタルビデオカメラ、デジタルスチルカメラ、デジタル一眼レフカメラ、ミラーレス一眼カメラ、デジタルフォトフレーム
	チューナー/STB	地上デジタル放送チューナー、PC用地上デジタル放送チューナー、CATV-STB、IP-STB、ネットワークメディアプレーヤー
	ポータブル機器	デジタルオーディオプレーヤー、ポータブルメディアプレーヤー、ヘッドホン、ポータブルBD/DVDプレーヤー、ポータブルワンセグTV
	ホームオーディオ	パッケージシステム、一体型サラウンドシステム、スピーカー、アンプ、システムコンポ、アクティブスピーカー
エンターテインメント/情報機器	家庭用ゲーム機（据置型/携帯型）、PC、携帯電話端末/スマートフォン、スレート端末、電子書籍端末、電子辞書、ICレコーダー	
デバイス/技術/サービス動向編	ディスプレイパネル、LED光源/バックライト、ポケットプロジェクター用パネル、タッチパネル、手ぶれ補正、CCD/CMOS、オーディオデバイス、リチウムイオン電池、組み込みOS、コンテンツ配信/サービス	

< 調査方法 >

富士キメラ総研専門調査員による参入企業・関連団体などへの直接面接取材を基本とし、関連文献、社内データベースも活用

< 調査期間 >

2011年3月～5月

資料タイトル	「デジタルAV機器市場マーケティング調査要覧（2011年版）」
体 裁	: A4判 298頁
価 格	: 97,000円（税込み101,850円） CD-ROM付価格 各107,000円（税込み112,350円）
調査・編集	: 富士キメラ総研 研究開発本部 第二研究開発部門 TEL:03-3664-5818 FAX:03-3661-5275
発 行 所	: 株式会社 富士キメラ総研 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5839(代) FAX 03-3661-1414 e-mail:info@fcr.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ http://www.fcr.co.jp/